

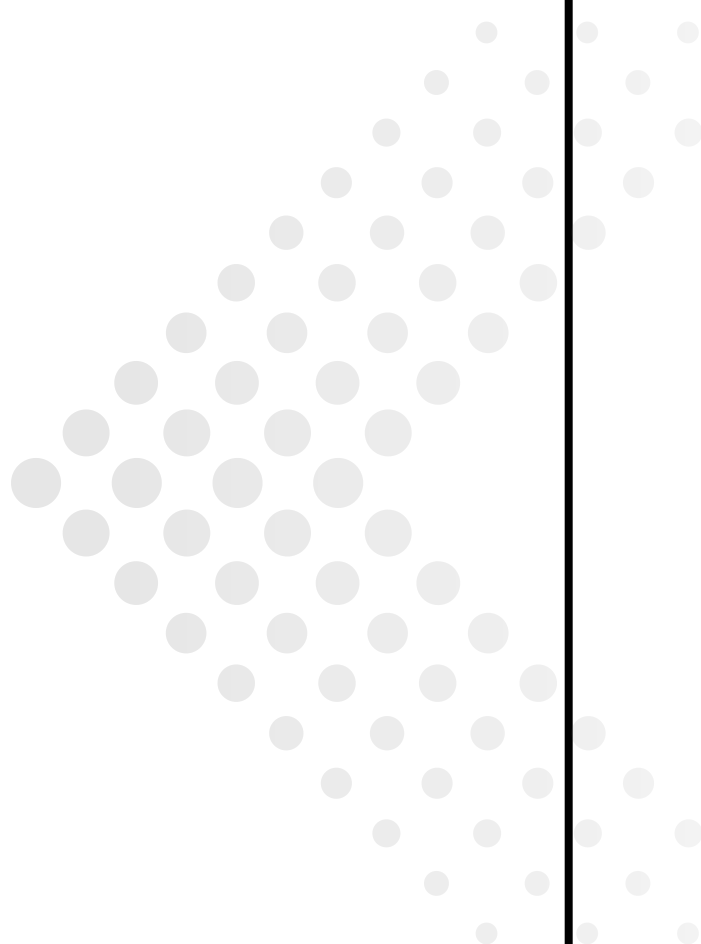
ハンセン病対策促進事業

実施事例集

2025

2026年6月

公益財団法人 笹川保健財団



2025年度 ハンセン病対策促進事業 事業概要・実施実績

事業概要

1. 対象団体 全国の地方公共団体(都道府県及び市区町村)
2. 支援期間 2025年5月～2026年2月
3. 支援上限額 一事業あたり250万円(税込)
4. 支援対象事業
 - 1) ハンセン病に対する差別・偏見の解消に向けて取り組む事業
 - 2) ハンセン病の患者・元患者等の福祉の増進等を図るために取り組む事業
 - 3) その他ハンセン病問題の解決に向けた取り組みとして新規性の高い事業
5. 選定方法
笹川保健財団が設置するハンセン病対策促進事業選定・評価委員会において、応募のあった事業から、高い事業効果が見込まれる事業を予算の範囲内で選定する。
選定は、原則として過去3年間に本事業による支援を受けたことのない対象団体を優先する。
6. 支援方法
笹川保健財団は、実施団体から提出される事業結果報告書に基づき、選定事業の実施に要した経費を負担する。

実施実績

応募数	11
選定数	11
実施数	10
支援金額合計(税込)	13,731千円

実施地方公共団体

北海道・・・p.2	東京都国立市・・・p.3	新潟県・・・p.4	愛知県あま市・・・p.5
三重県・・・p.6	兵庫県・・・p.7	島根県・・・p.8	岡山県・・・p.9
鹿児島県奄美市・・・p.10	熊本県・・・p.11		

実施団体：北海道	支援金額 1,259,524円
「ハンセン病問題と人権に関する弾き語りコンサート」の夕べ」	担当部署 保健福祉部感染症対策課

事業目的 ハンセン病回復者やその家族に対する差別の解消と、これまでハンセン病問題に対して無関心であった市民や若年層へのリーチを目的に、ハンセン病問題に取り組んできたアーティストのコンサートと講演会を開催した。

事業期間 2025年8月6日～2026年2月28日

事業内容 沢知恵「ハンセン病問題と人権に関する弾き語りコンサート・講演会の夕べ」
2025年10月31日（金）18時30分～
札幌エルプラザ・ホール

事業結果 コンサート参加者数 150名



コンサートの様子

選定・評価委員会による講評

評価点

- 参加者の感想から沢氏のコンサート自体は強い感銘を与えていたことが窺える。沢氏の経歴や内容の貴重さから、一定の効果はあったと認められる。

- ハンセン病問題に無関心な方に訴えるのが難しい中で、発信力のある人物と組み合わせた企画は、一つのやり方として妥当であった。

改善点

- これまでハンセン病問題に無関心であった新しい層に届けるため、音楽教室やミュージカル教室、ゴスペル、ロック等、クラシック以外の場にもチラシを置くなど、音楽のジャンルを超えた広報を広げる必要がある。

- 講演録等が残らなかったことが惜しい。継続的に実施する工夫が必要である。またチラシの表現も、音楽を入口としてハンセン病問題に気づいてもらえるような柔らかい打ち出し方が望ましい。

- 結果的には若年層がほとんど参加していないことから、継続する場合には若年層向けの企画の練り直しや別企画の立案が必要である。

事業目的 ハンセン病患者、元患者やその家族に関する人権問題を主なテーマとし、市民参加の学習会及び資料館等の見学・学習会を通じて、ハンセン病に対する差別・偏見の解消に取り組む。また、ハンセン病問題を主テーマとして扱いつつ、HIV感染・エイズや新型コロナウイルス感染症など、感染症に係る感染者やその家族、医療従事者に対する誹謗中傷等の人権問題について広く市民への啓発の機会とする。

事業期間 2025年8月6日～2026年1月31日

事業内容 ①連続講座（会場は全て国立市公民館）

・2025年12月13日（土）

「いま向き合うハンセン病の歴史」

講師：一橋大学大学院社会学研究科教授・石居人也氏

・2025年12月20日（土）

ドキュメンタリー映画「凱歌」上映会&坂口香津美監督の講演

・2026年1月17日（土）

ドキュメンタリー映画「かづる」上映会&熊谷博子監督の講演

②国立ハンセン病資料館及び国立療養所多磨全生園見学・学習会
2026年1月23日（金）

※①の連続講座に1回以上出席したことを②の参加条件とした。



連続講座



多磨全生園見学

事業結果 ①連続講座（合計3回）参加者98名

②国立ハンセン病資料館及び国立療養所多磨全生園見学・学習会
参加者24名

成果物 実施報告書を200部作成し、市役所や公民館等の市内公共施設へ配架。国立市人権擁護委員等に配布するとともに、国立市ホームページにも掲載した。



実施報告書

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・中身が充実しており、知りたい人の関心を深めながら講義、映画、フィールドワークへとつながり、作り込まれた内容である。
- ・非常にしっかり作り上げられたプログラムであり、参加者が今後地域でハンセン病問題の啓発活動をしていく核になる可能性がある。
- ・国立療養所多磨全生園が存在する多摩地域では、東村山市を除いてこれまであまり当該助成事業が扱われてこなかった中、国立市が一步踏み出したこと自体を高く評価する。

改善点

- ・大学教員とのつながりを生かして学生や大学内にも広報を広げること、初見の人への発信を継続していく必要がある。
- ・受講者の熱が冷めないよう、講座終了後の活動の場や次の展開を考えられることを提案する。
- ・多磨全生園を見学して終わりではなく、公民館事業としてその先どう発展させるかが鍵である。公民館運営審議会等でも評価し、国立市から周辺自治体へと展開されることに期待する。

実施団体：新潟県

支援金額 996,480円

医療従事者をめざす学生等への

ハンセン病理解促進・啓発事業

担当部署

福祉保健部感染症対策・薬務課

事業目的 医療等に従事することをめざす者が属する学校(医療、看護、介護関係)等と協力し、将来の医療従事者等によって、患者等への偏見・差別が生まれ、ハンセン病のような悲劇を再び招くことがないように、ハンセン病の歴史に学び、正しい知識の習得・普及を図ることを目的とする。

事業期間 2025年8月6日～2025年10月31日

事業内容 ①2025年8月7日 栗生楽泉園・重監房資料館
新潟医療福祉大学(5名)
新潟県、新潟県藤楓協会(8名)
②2025年9月12日 栗生楽泉園・重監房資料館
新発田病院附属看護専門学校(41名)
新潟県、新潟県藤楓協会(6名)
③2025年10月31日 多磨全生園・国立資料館
十日町看護専門学校(39名)
新潟県、新潟県藤楓協会(5名)
※参加学生の実施校において、事前学習等を実施
④2025年10月18日～19日 学園祭でのパネル展
新潟医療福祉大学 国立ハンセン病資料館の借用
パネルを展示し、学生が説明



重監房資料館訪問



パネル展

事業結果 ①～③ 参加者計104名
④ 学園祭でのパネル展示

成果物 実施報告書

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・医療福祉を志す学生を対象とした点で関心分野との重なりがあり、感想からも強く刺さる事業だったことがうかがえる。学園祭での展示は学生らしい柔軟な発想であり、今後他校にも展開できるヒントになる。
- ・将来の職業や価値観と結びつきやすい若者層を取り込んだ点が他地域の参考になる好事例であり、単なる見学で終わらず、自主的な学園祭展示へ発展した点が高く評価できる。若い人へのアプローチとして学ぶべき点が大きい。
- ・これまであまりなかった取り組みであり、看護系以外の大学や法学部、人権分野への展開も期待したい。

改善点

- ・悪天候により参加が難しかった日について、延期や仕切り直しという選択肢はなかったか。
- ・学園祭展示へつながった背景にどのような仕掛けや工夫があったのかを明らかにし、他地域とも共有すると有益である。

実施団体：愛知県あま市	支援金額 138,940円
①市民人権講座 「ハンセン病問題について」 ②ハンセン病を正しく理解するパネル展	担当部署 市民生活部人権推進課

事業目的 「あま市人権尊重のまちづくり条例」、「あま市人権尊重のまちづくり行動計画」の趣旨を踏まえ、人権問題の正しい認識と理解を深めてもらい、自由人権思想の普及高揚を図ることを目的とする。

事業期間 2025年6月1日～2025年7月31日

事業内容 ①市民人権講座

- ・ 2025年7月9日 14時～16時15分
- ・ あま市役所D会議室
- ・ 概要説明及びDVD上映
- ・ 講師 金 貴粉氏
(国立ハンセン病資料館学芸員)
- ・ 講師 谷川伸彦氏
(劇団名古屋代表)



市民人権講座 講師 谷川氏

②ハンセン病を正しく理解するパネル展

- ・ 2025年7月1日～7月11日
- ・ あま市役所1階市民活動スペース
- ・ ～駿河療養所の富士山と共に～
- ・ ハンセン病隔離から解放へのメッセージ
藤井善さんのことば
- ・ 小笠原登博士の遺品遺稿



パネル展

事業結果 ①参加者52名 アンケート45 (86%)

②フリースペースのため不明

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・ 療養所がない地域でハンセン病問題を自分事として考えようとする意欲的な取り組みである。
- ・ 講師陣が柔軟いアプローチを工夫できる方々であり、企画をさらに発展させる余地がある。

改善点

- ・ 来場者の高齢化が課題であり、若い人が来てみようと思えるようなチラシ文言やデザイン、またネット上の中傷やコロナと差別の問題など、今につながるテーマを示す工夫が必要である。
- ・ 役所主催の人権講座の枠にとどまり、既にハンセン病問題に関心を持つ方以外に広がりにくい印象があり、講師からもアイデアを得ながら広がりを持たせるべきである。
- ・ 若者が身近に感じるテーマを中間項として入れないと広がりには欠ける。同様に、新規の市民が参加しやすい方式を考える必要がある。

実施団体：三重県

支援金額 2,499,200円

ハンセン病を風化させないために
～回復者の生の声～ 映像制作放映事業

担当部署
医療保健部医療政策課

事業目的 時代の流れとともに、ハンセン病問題が風化されていくことが危惧される。ハンセン病回復者からハンセン病問題にかかわる事実や想いを「生の声」として聞き取り、貴重な資産として動画に残し、特別番組を放映することで、後世に伝承し、記憶の風化を防ぐとともに、教育・啓発の現場で活用されることも想定し、ハンセン病問題の真の解決に資することを目的とする。

事業期間 2025年8月6日～2026年2月28日

事業内容 ①動画制作 三重県出身入所者への取材・制作

- ・多磨全生園
- ・2025年10月17日 山岡会長と日程及び内容の打合せ、撮影
- ・2025年11月4日 山岡会長インタビュー、園内撮影
- ・長島愛生園
- ・2025年11月20日 川北幸子さん、光明園青木園長、喫茶店店主鍵屋さん他

②教職員グループワーク(教材に適する内容へのすり合わせ)

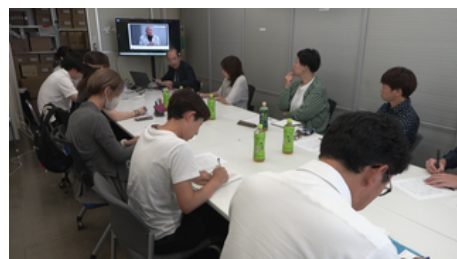
- ・2025年10月5日 参加者8名対面実施
動画作成に当たり、企画書をもとに意見要望を提出
- ・2026年1月19日 参加者5名Web開催

③特別番組の制作・放映 「さっちゃんは、ね」

- ・2026年1月25日 21時～ (世界ハンセン病の日)
番組ナレーター：NHK報道出身フリーアナ武田真一さん



特別番組取材



教員グループワーク

事業結果 ①動画制作

②教職員グループワーク 2回計13名

③特別番組制作・放映

成果物 特別番組の制作・放映「さっちゃんは、ね」

YouTubeによる配信：番組終了後、配信期間2年間で予定



特別番組

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・しっかりとした語りが収録されていることがうかがえ、この動画を教員をハブとして展開していくことが期待される。また、らい予防法廃止30年という節目を迎え、今後ハンセン病に関する報道が増える可能性もある中で、こうした動画の存在を積極的に発信していくことが重要である。
- ・教員がこの動画をどう使っていくかを、よりリアルな教育現場に落とし込む方法としてグループワークを取り入れている点が評価できる。他地域でも参考になる仕掛けであり、協力教員との関係づくりの過程や、グループワークを通じてどのように教材化が進んだのかといったノウハウも発信してほしい。

改善点

- ・動画を作成するだけでなく、『ここにこういう教材がある』と知ってもらう努力を重ねる必要がある。
- ・約50分という長さがあるため、教育現場で活用するには一定の加工が必要かもしれない。そのうえで、各学校の人権教育で活用を依頼する際には、依頼先を工夫する必要があり、また教員研修においても、受け身の研修だけでなくワークショップ形式やアクティブラーニング的要素を取り入れながら素材として活用していくことが重要である。
- ・実際に学校でどの程度使ってもらえるかが課題であり、教育部門と連携した依頼方法を工夫しないと普及は難しい。

実施団体：兵庫県	支援金額 905,660円
ハンセン病問題への正しい理解と 差別解消のためのリーフレット作成	担当部署 保健医療部疾病対策課

事業目的 ハンセン病問題に関する啓発用リーフレットを作成し、県民に対して、正しい知識を普及させるとともに、差別や偏見の解消を図ることを目的とした。

事業期間 2025年8月6日～2026年2月28日

事業内容 ・啓発用リーフレット作成・配布
ハンセン病問題に対する正しい知識
兵庫県出身のハンセン病回復者や家族の証言を掲載
市町教育委員会を通して県下の中学校などに配布
各市町にも送付し、県民全体への啓発を図る
アンケートの実施

事業結果 啓発パンフレット作成 10,000部

成果物 ・パンフレット10,000部作成
2026年1月より県内41市町の人権施策担当課、
感染症対策課、保健所、県教育委員会、中学校へ配布
・アンケート実施 Web及びFAX 回答数149件



パンフレット表紙



パンフレット

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・内容が非常に充実しており、読み物として成立している。表現も丁寧で、長く活用できる仕上がりになっている。全国の入所者数の中で兵庫県出身者数まで丁寧に示している点も、受け手に効果的に伝わる。
- ・兵庫県民に自分事として受け止めてもらえる内容であると同時に、他地域でも活用可能な要素を持つ貴重なパンフレットである。

改善点

- ・今後、このパンフレットをどのように生かしていくかが重要であり、ハンセン病に限らず、広く人権を扱うイベント等でも配布していくことが望ましい。また、パンフレットに掲載されているQRコードについても、動画等へのリンクを含め、さらに積極的な活用が望ましい。
- ・ホームページへのアクセス数の増加だけでなく、実数や目標値、ターゲット設定を明確にしたうえで、どこに配布するのかという計画性を持つ必要がある。
- ・中学生向けに加え、高校生への展開も視野に入れ、継続的かつ横展開を見据えて計画的に取り組むことが望ましい。

「ハンセン病の隔離の歴史と人権を学ぶ」

担当部署

健康福祉部健康推進課療養支援係

事業目的 島根県では、ハンセン病元患者の皆さんとご家族が安心して暮らせる社会を実現するため、ハンセン病問題について正しい知識と理解を啓発し、偏見や差別をなくす活動を行っている。今年度は、多くの世代の方に、ハンセン病の歴史を学び、長い間の誤った隔離政策による人権侵害から、偏見や差別のない社会の大切さや生き方を考えてみていただく機会とする。

事業期間 2025年5月1日～2025年11月30日

事業内容 島根県藤楓協会に両事業を委託

①啓発パネル及び生活用具等の展示

・ 2025年6月3日～6月26日

島根大学附属図書館展示室

②映画「かづゑ」上映会

・ 2025年10月5日 午前・午後2回上映

熊谷博子監督によるトークショー

松江市市民活動センター交流ホール



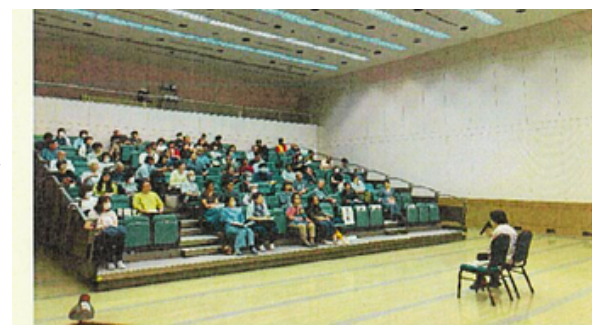
企画展示

事業結果 ①啓発パネル等の展示 来場者数428名

アンケート回答数23

②映画上映会 計2回上映 来場者数185名

アンケート回答数162（約88%）



上映会後のトークショー

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・ 大学図書館を活用した点が非常に効果的であった。若い世代へのアプローチとして図書館活用は他地域の参考になるとされ、上映会広報も事前告知を工夫したことが集客につながったのではない。
- ・ これまで教員個人の関心経由で展開してきた大学活用を、図書館という形で実現したことは、今後の好事例になる。県と地元大学が協力して何かを行う形は一つの有効なやり方である。

改善点

- ・ 図書館に説明役や案内人がいれば、若年層を映画上映につなげられた可能性がある。次の展開につながる工夫がさらにあるとよかった。
- ・ 新潟県のように学生が会場で説明役を担うなど、より広げる工夫も考えられる。
- ・ 開催時期や期間、たとえばオープンキャンパス時期など、人が多い時期を活用する工夫の余地があること、また学生が何を学び、どのような反応をしたかを継続的に把握し、大学内で教員を増やす等の展開につなげる必要がある。情報保障の導入不足もぜひとも克服いただきたい。

語り部証言映像等制作事業

担当部署

保健医療部疾病感染症対策課

事業目的 ハンセン病療養所の入所者（語り部）の平均年齢も89歳以上と高齢化が進んでおり、現在行っている「学校での語り部講演会」の実施が今後困難になると考えられるため、語り部の体験談を後世に伝え続けるべく、語り部の証言等の記録映像を制作した。ハンセン病問題は学習する者の年齢や理解度に合わせた学習教材が必要であることから、年齢に合わせた動画を5本制作した。

事業期間 2025年8月6日～2026年2月28日

事業内容 ①紙芝居動画1本（小学校低学年向け）
②語り部証言動画2本（中学生向け・高校生向け）
③インタビュー動画2本（県内高校生がインタビュー）

動画撮影協力校：明誠学園高等学校

瀬戸内市立牛窓東小学校

2026年3月23日 報道機関も傍聴可能な会場で発表

2026年6月 追悼の日パネル展（岡山県庁）

プレス時も併せて発表



語り部講演会

事業結果 動画制作

- ・紙芝居動画・・・1本
- ・語り部証言動画・・・2本
- ・インタビュー動画・・・2本

成果物

- ・紙芝居動画1本
- ・語り部証言動画2本
- ・インタビュー動画2本
- ・教員を対象とした研修や、学校等における人権教育等で積極的に活用を依頼
- ・県内の学校や保健所、市町村に対して積極的に活用を依頼
- ・2025年度末時点：県疾病感染症対策課のページに掲載



紙芝居



動画

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・児童・生徒が当事者にインタビューする形は、関わる生徒自身に深い学びをもたらす良い取り組みであり、10代の経験として残るであろう。
- ・小・中・高校生が動画に関わることで、見る側にも親近感が生まれ、教育教材として受け止めやすくなる。

改善点

- ・成果物がまだ公開されていないので完成度は判断できないが、誰を中心に撮っているのかなど、撮り方が気になる。また、実際に授業で使った後の教員からのフィードバックが重要である。
- ・ハンセン病問題に詳しくない教員でも正しく教えられるよう、動画とセットで手引書を作ることが望ましい。
- ・学校現場でどう展開されるかが肝要であり、初任者研修や10年目研修など教員研修の場で使うこと、フィールドワークや教材化ワークショップと組み合わせることが効果的である。

事業目的 広大な敷地を持つ奄美和光園内を実際に散策し、歴史的建造物などに触れることで国立療養所奄美和光園の歴史を学び、ハンセン病を通して社会における差別や偏見に対する理解を深める。

事業期間 2025年8月6日～2026年2月28日

事業内容 奄美和光園オープンデー 2025年11月23日(祝)

- ①スタンプラリー・コクトくんをさがせ(園内散策)
- ②映画「あん」上映会
- ③ワークショップ(紙芝居・工作)
- ④歴史資料館
- ⑤奄美FMディ生放送(於園内特設スタジオ)



園内スタンプラリー

事業結果 イベント参加者 延べ425名(実人数約300名)

- ①スタンプラリー・コクトくんをさがせ 158名
- ②映画「あん」上映会91名
- ③ワークショップ(紙芝居・工作) 137名
- ④歴史資料館39名
- ⑤奄美FMディ 園内での生放送を実施

- 成果物**
- ・パンフレット1,500部
「ハンセン病を知る週間」等で市民に無料配布
 - ・実施報告ポスター100枚
市内21小学校・12中学校ほか、公民館等に掲載
 - ・ミッションシート・解説パネル：一式 イベント当日に使用



ワークショップ

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・ 市政20周年記念事業という位置付けも踏まえつつ、親子が園に入りやすく、ハンセン病問題に触れる機会として非常に間口の広い、意欲的で充実した企画である。
- ・ 特に、スタンプラリーを通じて園内を歩けるよう工夫されていた点、居住エリアへの配慮や園との協力関係がうかがえる点、予約制の中でも参加しやすい企画だった。他の療養所にとっても参考になる事例であり、どのように実施したのかを広く周知していただきたい。
- ・ 家族で療養所を訪れ、楽しみながら歴史を知ることができるプログラムは他の園にも参考になる。学校見学のように重い学びをそのまま持ち帰るだけでなく、家庭内で『あの時こうだったね』と共有しやすいハードルの下げ方の工夫として意義が大きく、こうしたノウハウを次年度以降も継続し、他地域にも広げてほしい。
- ・ 非常に画期的な取り組みであり、家族連れを呼び込む工夫や、地元FMをうまく活用している点が高く評価できる。今後の継続を期待する。

改善点

- ・ 改善点ではないが、300人の来場は成果である一方、療養所との関係性や駐車場の制約から事前予約制とせざるを得ず、当日参加が難しい運営であったことが奄美市による自己評価の一つとして明記されていることについては、同感である。

実施団体：熊本県	支援金額 2,495,904円
菊池恵楓園入所者絵画作品展及び 西日本文化賞受賞時の受賞者インタビュー映像の放映	担当部署 健康福祉部健康局健康づくり推進課

事業目的 これまでもハンセン病問題に関する一般向け研修会や「菊池恵楓園で学ぶ旅」など県民参加型の啓発事業に取り組んできたものの、5人に1人が偏見や差別が少なからずあると回答している。啓発を一層促進するため、子どもから高齢者まで誰もが親しみやすい絵画という文化芸術面を切り口とし、幅広い世代の県民に、ハンセン病問題についての理解を深めてもらう。

事業期間 2025年8月6日～2025年12月31日

事業内容 菊池恵楓園絵画クラブ金陽会絵画の展示、作品解説等

第83回西日本文化賞の社会文化部門正賞受賞における受賞者インタビュー映像の放映

①イオンモール熊本（イオンホール）

2025年11月21日～24日

会場内 32点展示

②荒尾総合文化センター（会議室2）

2025年12月3日～7日

会場内23点展示



イオンモール熊本



荒尾総合文化センター

事業結果

①イオンモール熊本	来場者151名
アンケート	回収数 91
②荒尾総合文化センター	来場者 78名
アンケート	回収数 62

選定・評価委員会による講評

評価点

- ・ 絵画が物語を持つことで入口として非常に強く、絵を通じて考えてもらう形が効果的である。
- ・ 絵画は年代を問わず入りやすく、しかも公的施設ではなく商業施設でふらっと触れられる点が非常に良い取り組みである。
- ・ ポスターの「知らないを見に行こう」という打ち出しや、イオンモールという会場設定が非常によくできており、今後の可能性を感じさせる。チラシ（次頁以降）は好例である。
- ・ 一般市民が見るきっかけを作る企画として非常に良い。地元テレビ報道もプラス効果があった。

改善点

- ・ 展示を見た人が今度は作品が生まれた菊池恵楓園や資料館に足を運ぶような逆方向の導線づくりも必要である。
- ・ 1回展示を見る限りで終わらず、関心を持った人がさらに知りたい、関わりたいと思った先につながる仕組み作りも必要である。
- ・ 県立美術館等の「公の場」で企画展並みの扱いとして展開されることも望ましい。

入場
無料



(左) 森 繁美 2002年 油彩、キャンバス 60.6×72.7cm

\ vol.23 /

「知らない」を 観に行こう。

国立療養所菊池恵楓園
絵画クラブ金陽会作品展

会期.1

2025年
日時 **11月21日** 金 ~ **24日** 月
10:00~17:00

会場 **イオンモール熊本**
2階中央 イオンホール
熊本県上益城郡嘉島町上島字長池2232

会期.2

2025年
日時 **12月3日** 水 ~ **7日** 日
10:00~17:00

会場 **荒尾総合文化センター**
会議室2
熊本県荒尾市荒尾4186-19

主催:熊本県

協力:一般社団法人金陽会、公益財団法人西日本新聞文化財団、国立療養所菊池恵楓園、国立療養所菊池恵楓園入所者自治会(五十員組)
後援:荒尾市、荒尾市教育委員会、嘉島町、嘉島町教育委員会

熊本県事業チラシ(表)

国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ全陽会は、一人の看護師の呼びかけにより1953(昭和28)年に発足した絵画クラブです。特定の師を持たず、独学で描かれた作品は900点以上にもおよび、それぞれの遠い記憶の中にある故郷の風景や、家族・友人への想いを込めた独自の作品が数多く生みだされました。

熊本県では、ハンセン病問題について、正しい理解がより一層進むよう、文化芸術という切り口による啓発として、この貴重な作品を活用し、2019(令和元)年に絵画パネルを、2020(令和2)年には作品集「絵の中のふるさと」を、そして、2021(令和3)年には「菊池恵楓園散策マップ」を制作し、周知を図ってまいりました。

一方で残念ながら、この全陽会の活動や菊池恵楓園のことをご存じない方も少なからずいらっしゃいます。

そこで、より多くの方に全陽会の作品に触れていただき、様々な苦難を経験されてこられたハンセン病回復者の皆様の作品に込められた想いに寄り添い、この問題について、ともに考えていただきたいとの願いを込めて、2022(令和4)年度から県内各地で作品展を実施しております。

皆様にとって、ハンセン病問題、そして、そこから学ぶべき教訓とは何かを考えていただく契機となりますことを心より願っております。

主催者



《深山の秋》 吉山 安造 2013年 油彩、キャンバス 145.5×112.1cm



《シグラメン》 矢野 悟 2000年 油彩、キャンバス 37.9×45.5cm



《タイトル不詳》 朝井 真実 2002年 油彩、キャンバス 53.0×65.2cm

〈問合せ先〉 熊本県健康づくり推進課 Tel.096-333-2210

※この企画は、厚生労働省の委託により公益財団法人香川保健財団が実施しています2025年度「ハンセン病対策促進事業」の助成を受けて開催します。

熊本県事業チラシ（裏）

[令和7年度 厚生労働省委託事業]
2025年度 ハンセン病対策促進事業
実施事例集

発行日 2026年6月30日

発行(受託者) 公益財団法人 笹川保健財団

所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

電話 03-6229-5377

URL <https://www.shf.or.jp>



QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

(C) 2026 Sasakawa Health Foundation. All rights reserved.

